

会 議 録 (要旨)

会議の名称	平成30年度瀬戸市障害者地域自立支援委員会
日 時	平成31年3月1日(金) 午後10時～正午
場 所	瀬戸市役所 4階 大会議室
委員の参加者数	委員15名のうち12名参加
傍聴者	0名

あいさつ (社会福祉課長)

本日の会議ですが、先にお送りしました次第に基づき、2時間程度を目途に進めてまいります。本日の出席者でございますが、委員15名中、12名ご出席いただいております。本委員会運営規則に基づき過半数の出席がありますので、本会は成立していることを報告いたします。それでは委員長、よろしくお願いいたします。

報告事項

1 瀬戸市障害者地域自立支援協議会 (研修会・運営会議・専門部会) の活動報告について 事務局より資料1に基づき説明

委 員：相談支援部会が特別養護老人ホームに見学に行った主旨は？

事務局：65歳を迎えると介護保険に移行するという制度があるために、相談員の視野を広げることを目的として行ったもの。

2 瀬戸市障がい者相談支援センターの活動報告について 瀬戸市障がい者相談支援センター長から資料2に基づき説明

委 員：事業所の閉鎖の主な原因は何か、分かれば教えてほしい。

事務局：経営が主な原因かと思われる。瀬戸市に限らず、全国的に起きている問題。最低賃金が払えない就労継続支援A型、就労継続支援A型からB型への切換え、障害者雇用の需要が高まり就労移行支援の必要性が低くなったこと等で、就労系の事業所は経営が難しくなっている傾向がある。

委 員：障害者雇用の枠に知的障害者、精神障害者を強制的にでも入れる必要があるのではないか。身体障害者と差が出てしまっている。

事務局：身体障害者を中心とした募集要項を出してしまった事実があり、すべての障害者をしっかり雇用するようにと国通知が出ている。また有効な方法として、支援者付き雇用をしないと知的や精神障害者の就労定着が難しいのではという考えが出てきている。

3 障害者虐待事例の報告について 事務局より資料3に基づき説明

委 員：「相談・通報」と、「虐待として認定したケース・認定しなかったケース」との関係性はあるのか。また「分離をした・分離をしなかった」の判断はどのようなか。

事務局：前者について、関係性はない。市が事実確認をし、認定しなかったケースはある。後者について、分離をしたケースは性的虐待。分離をしなかったケースは家族からの言葉の暴力であり、注意で対応した事案である。いずれのケースも関係機関と連携して支援を続けている。

次ページへ

4 障害者差別解消法における報告事例について

事務局より資料4頁に基づき説明

委員：「通所している事業所に対して確認した」ことで、利用者と事業所との関係性が悪化することはなかったのか。

事務局：そのようなことはない。本人の意向で事業所の利用を停止しているという事案はある。

協議事項

1 瀬戸市障害者福祉基本計画（第6次）における目標の事業評価について

事務局から資料5頁に沿って説明。

委員長：目標名1の事業評価の「体制」と次期計画に向けた今後の取組の「体制」はどのように異なるのか。

事務局：前者は「地域」の体制、後者は「施設」の体制。

委員：目標名5について、医療的ケア児の人数は把握しているのか。

事務局：把握していない。

事務局：県が実態調査をすることが決まっており、概算は出ている。

委員：目標名2の次期計画に向けた今後の取組の内容には、真逆の意見を持っている。当事者会には関係機関との連携が取れておらず、孤立を感じる。

委員長：当該箇所は、今の意見を反映できるように事務局で検討できないか。

事務局：検討します。

委員：目標名5の次期計画に向けた今後の取組について、研修や勉強会の対象者は誰を想定しているのか。

事務局：事業所の質の担保を目的として、事業所の職員を想定している。

委員：障害の早期発見という考えを踏まえ、学校の教職員や一般市民を対象者としてもいいのでは。

委員：精神科病院で長期入院の方からの退院支援を行う際に、社会資源がないために退院が難しいケースがある。支援機関によるしっかりとした支援をお願いしたい。実績の数値が0であるところが気になる。精神障害者の自由に語り合える居場所づくりの必要性を強く感じる。それが外に出る一つの社会資源にもなる。今後の取組について入れてほしい内容。

事務局：福祉サービスの実績から行くと0人であるが、福祉サービス利用以外で退院支援をしたケースは何人かある。関わりのない方への支援は難しく、その場合には病院と連携して行く必要があると感じている。

委員：長期入院患者で、地域で暮らすことのイメージがわからない人に対する支援はとても重要。市内以外の病院に入院している人への支援は可能なのか。

事務局：可能な限り支援を行いたいが、相談をしてほしい。

委員：（地域移行ネットワーク会議について説明）パンフレットを管内の関係機関と共同で作成し、次年度以降は病院を回って周知していく予定。

委員長：自由に語り合える居場所づくりについてはどのようなか。

事務局：市内には当事者団体や親の会があるため、既存の団体等と一緒に活動ができればと思っている。

事務局：居場所づくりについて、ネット依存や引きこもりの人も含めて、市町村がどのように作っていくのかを柔軟に考えていくしかないという専門家の意見がある。圏域内で検討をしている市町村もある。

次ページへ

委員：市町村の事業として新たに行うのには負担があるのかと思う。例えばそういった支援に新たに関わってもらえるボランティアを養成していくこともいいのではないか。「支援者」だと縦の関係になってしまいがち。工夫によって負担感を少なく取り組んでいくことができるのではないかと思う。

委員長：(委員からの意見をまとめ、)今後の取組について、内容の調整が入るかもしれないことを含め、内容を承認してよろしいでしょうか。

委員：(異議なし)

2 瀬戸市障害者福祉基本計画(第6次)の障害者施策の実施状況及び事業評価・意見等 事務局から資料6頁に沿って説明。

委員長：内容を承認してよろしいでしょうか。

委員：(異議なし)

委員長：部会をはじめとした多様な活動が展開されていることが改めて確認できた。本日の協議会で出されたたくさんの意見を次年度以降の実践に反映させ、次の発展につなげていきたいと思う。

その他

事務局より国県等の動向を報告。

委員：地域移行に関して、個々のピアサポーターの位置づけはどのようになっているのか。

事務局：実際には活動しているという県の報告は聞いているが、個々の具体的な動きについては把握できない。

以上